

第1回徳島県特別支援学校の教育環境に関する検討会議の概要について

1 日 時 令和7年9月2日（火） 午後3時から午後5時まで

2 場 所 徳島県庁 9階 教育委員室（徳島市万代町1丁目1番地）

3 出席者

- （1） 委員13名
- （2） 教育次長、特別支援教育課長 ほか

4 議 事

- （1） 会長・会長代理の選出（会長：富樫敏彦委員、会長代理：小倉正義委員）
- （2） 「徳島県立特別支援学校の現状と課題」及び
「徳島県特別支援学校の教育環境に関する検討会議」について
- （3） 各検討事項について
- （4） その他

5 各委員からの主な意見

検討事項（1）特別な支援を必要とする児童生徒の今後の人数予測について

- ① 知的障がいを対象とする特別支援学校においては、在籍児童生徒数の増加に伴い学びの場（環境）が狭くなってきている。教室不足解消の方策として、例えば、高等部だけ近くの空いている場所へ移すなど「既存ストック」を活用できないか。
- ② 近年、療育手帳の取得者は増えており、取得年齢も下がっている。療育手帳の取得者数の推移と特別支援学校在籍児童生徒数の推移の相関関係についても分析が必要である。
- ③ 視覚障がいや聴覚障がいを対象とする特別支援学校においては、在籍児童生徒数が減少傾向にあり、知的障がいを対象とする特別支援学校とは真逆の課題を抱えている状況にある。
- ④ 今後の人数予測においては、手厚い支援を受けたいという気持ちを持つ人の割合や社会背景も影響すると考えられる。どのような要因を考慮し、どのようなデータが必要になるのかを十分検討する必要がある。

検討事項（２）次世代の特別支援教育の担い手となる人材の育成と確保について

<人材の育成>

- ① 教員はそれぞれの分野において高い専門性を有しているが、自身のことで精一杯であり、周囲に伝えることができていない。各教員の高い専門性を大事にし、校内でいかに共有していくかが重要である。
- ② 所属する校内では、どれだけ負担少なく、専門性を高められるかを考えており、「やらされる研修」から「主体的に学べる研修」へとなるよう工夫を重ねている。教員も多様化しているので、それぞれのニーズ等を大事にしながら、専門性を高めていくことを考えたい。
- ③ 補充教員等では初めて特別支援教育に携わる方も多く、その部分をサポートすることもあってベテランの教員が疲弊している。若手の教員を育成するだけの余裕がない状況である。

<人材の確保>

- ① 教員は情熱を持って教育に携わっている一方で、自分へのケアといった点で苦慮している様子がうかがえる。病休や離職の防止を考えると、メンタルヘルスのケアが不可欠である。
- ② 学校の仕事には、教員免許状を必要とする専門的な内容とそうでない内容がある。仕事をうまく切り分けることができれば、人材の確保につながると考えられる。
- ③ 福祉分野も人材不足の状況であるため、人材確保に向けてインターンシップを制限なく受け入れている。また、大学へ出向き、就職先の選択肢として検討していただけよう学生に対して広報を行っている。
- ④ 「交流」の機会を生かし、特別支援学校の教員と児童生徒が力を合わせて取り組んでいるところを見ていただくことは、新たな教育者を発掘・育成することにつながっていくのではないかな。

検討事項（３）特別支援学校に在籍する児童生徒が、可能な限り地域の中で共に学ぶ教育の実現について

- ① 池田支援学校美馬分校が教育活動として毎週１回営業している「みまカフェ」は、地域の方との定期的な交流の機会となっており、「地域の中での生活」となっている。
- ② 周囲の方々が一歩踏み込んでくれることで自然と関係性が生まれ、互いに成長していくことができると思う。足を運んでもらえる学校づくりはすごく大事だと思う。